

明治三十年一月日  
大藏大臣  
厚法第一等ノ依リ私設保税倉庫ノ庫主  
保管ノ貨物輸入税ノ担保トシテ供託スルキ  
左ノ通相定ム

一 普通貨物ヲ藏置スル倉庫

平家建百坪迄

金貳千圓

以上五拾坪迄ヲ増ス毎ニ金千圓ヲ加フ

二 階建百坪迄

金三千圓

以上五拾坪迄ヲ増ス毎ニ金千五百圓ヲ加フ

一 石油ヲ藏置スル倉庫

平家建百坪迄

金千圓

以上五拾坪迄ヲ増ス毎ニ金五百圓ヲ加フ

二 階建百坪迄

金千五百圓

以上五拾坪迄ヲ増ス毎ニ金七百五十圓ヲ加フ

私設保稅倉庫担保金算出理由書

保稅倉庫法第二十一條ニ依リ私設保稅倉庫ニ藏置ノ  
貨物ニ對スル關稅ノ担保トシテ其庫主ヨリ供託スル金額ハ  
藏置貨物ノ關稅ヲ以テ標準ト為サルハカラス然ルニ其  
藏置貨物ニ容積ヲ充スコト多クシテ廉價ノモノアリ又  
之ニ及ビテ容積ヲ充タスコト少クシテ高價ノモノアリ隨テ之  
對スル關稅モ亦高低輕重アルヲ以テ殆ト其正確ノ標  
準ヲ得ルニ由ラシ因テ先ツ保稅倉庫ニ藏置ヲ許スル  
ノ物品ノ内其重要ニ屬スル綿織糸外十一品ヲ撰定シ  
以テ担保金額算出ノ基礎ト為セリ

平家建百坪ノ倉庫ニ高サ六尺ニ貨物ヲ積積スルモノ  
セハ二万六千六百立尺ナリト雖モ庫内ニハ必ス通路等ニ充  
ツルノ空處ヲ要スルハ則チ其内三割ヲ扣除シ殘數一萬

五千百二十立尺ヲ以テ貨物ヲ藏置シ得ルキ容積トシ之  
ニ綿織糸外十一品ヲ單獨ニ藏置スルトキ其價額各  
若干ナルヤヲ算出シ之ヲ綜合シテ十分レ以テ藏置價  
額ノ平均數ヲ見ルニ九万八千九百九拾四ト為レリ故ニ其  
稅額平均一割ニ相当スル金額ヲ以テ直チニ担保金額  
ト為ストキハ即チ平家建倉庫百坪ニ付担保金九千  
八百九拾九圓ヲ要スルノ計算タリ然ルニ私設保稅倉  
庫ニハ官ノ鎖鑰ヲ設ケ其開閉及貨物ノ出入ニ必  
ズ稅關官吏ノ立會ヲ受ケシムルモノナレハ貨物紛失等ノ  
場合極ナテ多シナルハ殊ニ藏置貨物ハ出入頻繁ニ  
シテ常ニ庫内ノ全容積ヲ填充セリルニ非ス又担保金額  
多キニ過クルトキハ之カ為メ營業ノ成立ヲ阻過スルノ  
虞ナキ能ハス是ヲ以テ彼此對面輕減シテ其五分

保稅倉庫ニ設置スルヲ得ル貨物ノ種類調査ノ要  
願

官設保稅倉庫ハ設置ヲ禁スヘキ數種ノ貨物ヲ除ク外廣ク  
設置ヲ許スヘキモノナレハ其設置ヲ許ス物品ノ種類ヲ場名ヨリ  
ハ寧ろ設置ヲ禁スルモノヲ掲グルヲ便ナリトス 因テ無稅品價額  
貳百圓以下ノモノ、巨大重量ノモノ、損傷腐敗セシモノ若クハ損  
傷腐敗シ易キモノ、發火質、燃燒質、若クハ爆發質ノモノ他  
貨物ヲ汚損スヘキモノ、倉庫ヲ汚損スヘキモノヲ除ク外總テ藏  
置ヲ許スコト、セリ而シテ無稅品以下數種貨物ノ設置ヲ禁  
スルヲ要スル所以ハ無稅品ハ保稅倉庫ノ性質上設置ヲ許スヘキニ  
非ス又價額三百圓以下ナル貨物ハ若シ設置期限内ニ之ヲ引  
取ラスシテ無請求品ニ屬シ競賣ニ附スル場合ハアルトキハ其  
競賣價額額ノ扣除スヘキ收入金ニ充ツルニ可クナルカ

無キヲ保シ難シ又其他五項ニ在テハ倉庫及他ノ物品ニ  
害ヲ生スル虞アルコトヲ以テ之カ設置ヲ禁セサルヲ得サルナリ  
私設保稅倉庫ハ稅關所在地ニ懸隔スルモノアルベキノミナラ  
ズ其設置貨物ハ庫主ノ保管ニ屬スルモノナルヲ以テ検査鑑  
定等ノ手續複雑ニ涉ラズシテ容易ニ稅額ノ調査ヲ  
シ得ルモノニ限ラサルヲ得ス故ニ私設保稅倉庫ニ設置ヲ許  
スヘキ物品ハ一定ノ數量價格ヲ有スル品種ヲ選擇スルヲ要ス  
然レモ若シ其範圍狹隘ナルトキハ遂ニ私設保稅倉庫ヲ  
許サレタルノ効用ヲ失スルニ至ルベキヲ以テ各個ニ就キ細密ノ檢  
査鑑定ヲ為サスシテ濼稅ノ調査ヲ為シ得ヘキモノハ其藏  
置ヲ許シ成ルベク其範圍ヲ廣ムルノ方針ヲ執リ之ヲ調査  
シタリ